

「ロンドン 1 位、東京 2 位 留学に適した都市ランキング」

世界の学生たちが快適な海外留学生活を送れる都市はどこか。英国の高等教育評価機関「クアクアレリ・シモンズ (QS: Quacquarelli Symonds)」は、都市内に存在する大学の実績に加え、都市の安全性、環境さらに学生たちに対して行った調査結果を基にした評価などさまざまな観点から留学に適した都市をランク付けした「QS ベスト・スチューデント・シティ 2025」を 6 月 18 日に公表した。1 位はロンドン、2 位は東京、3 位はソウルでロンドンの 1 位は 4 年連続で東京の 2 位、ソウルの 3 位も前年と同じ。このランキングが始まってからの 4 年間で、これら 3 都市以外が上位 3 位内に入ったのは、1 回目と 2 回目のミュンヘン (それぞれ 2 位) だけとなっている。上位に並ぶ都市の顔触れに大きな変化はない。

「QS ベスト・スチューデント・シティ 2025」上位 50 都市

順位	前年 順位	都市	国・地域	QS 世界大学ランキング 2025 最上位校 (数字は QS 世界大学ランキング 2025 順位)
1	1	ロンドン	英国	インペリアル・カレッジ・ロンドン (2)
2	2	東京	日本	東京大学 (=32)
3	3	ソウル	韓国	ソウル大学 (31)
4	5	ミュンヘン	ドイツ	ミュンヘン工科大学 (28)
5	4	メルボルン	オーストラリア	メルボルン大学 (13)
6	7	シドニー	オーストラリア	シドニー大学 (18)
7	6	パリ	フランス	PSL 研究大学 (24)
8	=8	チューリッヒ	スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (7)
9	=8	ベルリン	ドイツ	ベルリン自由大学 (97)
10	13	モントリオール	カナダ	マギル大学 (29)
11	11	トロント	カナダ	トロント大学 (25)
12	14	京都・大坂・神戸	日本	京都大学 (=50)
13	16	エディンバラ	英国	エディンバラ大学 (27)
14	12	ウィーン	オーストリア	ウィーン大学 (137)
15	15	シンガポール	シンガポール	シンガポール国立大学 (8)
16	10	ボストン	米国	マサチューセッツ工科大学 (1)
17	19	ローザンヌ	スイス	スイス連邦工科大学ローザンヌ校 (26)
18	17	ニューヨーク	米国	コロンビア大学 (34)
19	18	バンクーバー	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学 (38)
=20	=24	アムステルダム	オランダ	アムステルダム大学 (55)

=20	=22	ストックホルム	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学 (73)
22	21	香港	香港	香港大学 (=27)
23	=24	クアラルンプール	マレーシア	マラヤ大学 (=65)
24	29	オークランド	ニュージーランド	オークランド大学 (87)
25	=22	ブリスベン	オーストラリア	クイーンズランド大学 (43)
26	33	台北	台湾	国立台湾大学 (77)
27	=30	マンチェスター	英国	マンチェスター大学 (=34)
28	26	アデレード	オーストラリア	アデレード大学 (109)
=29	=30	キャンベラ	オーストラリア	オーストラリア国立大学 (30)
=29	20	サンフランシスコ	米国	スタンフォード大学 (5)
31	37	北京	中国	北京大学 (14)
32	32	ダブリン	アイルランド	トリニティ・カレッジ・ダブリン (87)
33	36	グラスゴー	英国	グラスゴー大学 (78)
34	=27	マドリード	スペイン	マドリード・コンプルテンセ大学 (164)
35	=34	パース	オーストラリア	ウェスタン・オーストラリア大学 (77)
36	=39	ルーベン	ベルギー	ルーベン・カトリック大学 (=63)
=37	43	コペンハーゲン	デンマーク	コペンハーゲン大学 (82)
=37	=27	ロサンゼルス	米国	カリフォルニア工科大学 (=6)
39	=39	ニューカッスル・アポン・タイン	英国	ダラム大学 (=89)
40	=39	プラハ	チェコ	カレル大学 (=246)
41	38	バルセロナ	スペイン	マドリード・コンプルテンセ大学 (167)
42	=34	ブエノスアイレス	アルゼンチン	ブエノスアイレス大学 (71)
43	=44	コベントリー	英国	ウォーリック大学 (=69)
44	=39	シカゴ	米国	シカゴ大学 (21)
45	=44	ブリストル	英国	ブリストル大学 (54)
46	48	上海	中国	復旦大学 (39)
47	=44	リヨン	フランス	リヨン高等師範学校 (187)
48	49	バーミンガム	英国	バーミンガム大学 (80)
49	51	イエーテボリ	スウェーデン	チャルマース工科大学 (=139)
50	47	サンティアゴ	チリ	チリ・カトリック大学 (93)

(QS Best Student Cities 2025、QS Best Student Cities 2024、QS World University Rankings 2025 から作成：＝は同順位の存在を示す)

都市の寛容性と包摂性も評価

QS の評価法は、QS 世界大学ランキングにランクインしている大学が何校あるかと、それらの大学の実績をまず重視する。さらにより多くの学生を受け入れるための準備が整っているかを見るため、世界大学ランキングでランク付けされた大学の学生数が都市の人口に占める比率や、学生総数に対する留学生の比率などが評価対象となる。授業料の額と生活費がどれだけかかるかも重要な評価項目だ。留学生に対する都市の寛容性と包摂性、多様性、親しみやすさ、移動のしやすさ、雇用機会なども QS が毎年実施している学生調査結果を基に評価している。住みやすさ指数や安全指数、腐敗認識指数などいろいろな機関が公表している数値を用いて、都市の安全、大気汚染など環境から留学生が払う授業料が都市の財政の中で適切に活用されているかなどにも目を向けている。

こうした評価の結果、上位にランク付けされた都市に対する QS の評価はどうか。1 位のロンドン英国で、最も多くの大学がある都市だ。「QS 世界大学ランキング 2025」で 2 位のインペリアル・カレッジ・ロンドンをはじめ同ランキングでランク付けされた大学が 18 に上り、このうち 4 校が上位 50 位内に入っていることがまず高く評価された。

さらに自然史博物館、大英博物館など、世界有数の博物館があり、かつこれらはすべて入場無料。ロンドンのほぼ半分が「緑地」に分類され、大都会にしながら、自然界と素晴らしいつながりを持つ。住民の 36.7% が英国外の生まれという真にグローバルな都市で、多くの地域で他文化に触れることができる。グーグル、アマゾン、ユニリーバなど、多くの国際企業がロンドンで採用活動を行っている。こうした数々の利点に加え、家賃や生活費が英国の他の地域に比べてかなり高いという厳しい実態も挙げたうえで、留学生には魅力にあふれた都市としている。

刺激的な学生環境評価高い東京

2 位の東京についてはどうか。「QS 世界大学ランキング 2025」にランクインしている大学は、32 位の東京大学をはじめ 84 位の東京工業大学、181 位の早稲田大学、188 位の慶応大学、539 位の一橋大学など 18 校ある。それぞれの大学の順位は、ロンドンの有力大学に比べるとはるかに見劣りするものの数はロンドンと同数。ニューヨーク、ロンドンと並ぶ世界三大金融センターであり、世界最大の投資銀行や保険会社、グローバル企業の本社が集まっている。羨望の的となる専門職やインターンシップの機会も提供しており、大学を卒業する学生に選択の余地を与えている。ハイテクから運輸、貿易、コンサルティング、金融、医療まで、あらゆる学歴の優秀な人材がキャリアをスタートさせ、長期的に成功することを可能にする。こうした利点に加え、生活面での魅力も強調されている。

大通りや賑やかな街並み、活気ある地域文化など、地球上で最も刺激的な学生環境はこの国から来てユニークな体験になる。豊かな歴史と文化が分かる博物館、公園、寺院、

神社、イベントが数多くある。何千ものレストランがあり、寿司や刺身、たこ焼き、バーベキュー、麺料理など、日本の料理の楽しさを体験できる。街は清潔なだけでなく、地元の人々にとっても外国人にとっても非常に安全で、勉強するには最高の場所。交通システムが整っているため、東京のすべてを快適かつ確実に体験できる。世界的に見れば最も安い留学先の一つではないが、ロンドンやミュンヘンといったヨーロッパのハブ都市に比べれば、東京の物価はまだ安い、など誉め言葉が並ぶ。

経済力、生活面魅力大のソウル

3位のソウルはどうか。「QS 世界大学ランキング 2025」にランクインしている大学は、31位のソウル大学をはじめ、53位の KAIST（韓国科学技術院）、56位の延世大学など23校と、英国、日本を上回る。世界で最も経済競争力の高い都市のひとつで「フォーチュン・グローバル 500」に名を連ねる企業が12社あり、技術革新のためのハイテク拠点でもある。卒業生が成功するキャリアへのスムーズな移行を実現するに適した都市。こうした利点に加え、東京と似たような生活面の魅力も挙げられている。

24時間365日、退屈することのない都市。夜市の売り子の声、オールナイトの茶店の雰囲気、ゲームセンターでの客の叫び声など、ソウルは午前3時になっても午後5時と同じような活気に満ちている。市街から1時間足らずの郊外に出れば、山岳地帯や魅力的で歴史的な村々を散策することも可能。どこを向いても文化、歴史、創造性にあふれ、退屈することがない。こうした魅力に加え、学生に対する調査に対する回答者の次のような言葉も紹介されている。「多様な文化のおかげで素晴らしい経験ができ、すべてがとても便利だ」

留学費用についても、平均年間授業料は6,300ドルと非常に安いとは言えないが、7,700ドルの東京と比較すると、ソウルはかなり良く見える、としている。

12位に「京都・大坂・神戸」

「QS ベスト・スチューデント・シティ 2025」には、150の都市がランク付けされている。上位50位の都市の顔触れを見ると、1都市を除き前年と同じで順位も大きな変動はない。ロンドン、東京、ソウルに続く上位都市は次のようだ（カッコ内は都市内の「QS 世界大学ランキング 2025」最上位校とその順位）

4位ミュンヘン（ミュンヘン工科大学：28）、5位メルボルン（メルボルン大学：13）、6位シドニー（シドニー大学：18）、7位パリ（PSL 研究大学：24）、8位チューリッヒ（スイス連邦工科大学チューリッヒ校：7）、9位ベルリン（ベルリン自由大学：97）、10位モントリオール（マギル大学：29）、11位トロント（トロント大学：25）と続き、12位に「京都・大坂・神戸」（京都大学：50）が入っている。「京都・大坂・神戸」の魅力として挙

げられているのは、平均年間授業料が 5,500 ドル（東京、ソウルよりも低額）で、物価も安いこと。芸術、文化、優れた料理、寺院、美しい風景などを兼ね備え、学生がこれらの都市での経験を楽しみ、卒業後も滞在することを熱望していることが、学生に対する調査からも明らか。もし一つの国と見ると、GDP（国内総生産）の合計額も世界の上位 20 国内に入るほど大きく、国際的大企業が支社を置く理由となっている、などさまざまな魅力が挙げられている。

日韓、少数大都市に大学偏在

一方、150 都市の国・地域別分布をみると日本と韓国の別の姿が浮かび上がる。日本で 150 都市に入っているのは、東京、「京都・大坂・神戸」のほかは 108 位の名古屋だけ。韓国もソウル以外は、74 位の大田、136 位の釜山と日本同様、3 地域にとどまる。ロンドンをはじめ 16 都市が入っている英国、同じく 16 都市が入った米国と比べるとその差は大きい。米国は 16 位のボストン（「QS 世界大学ランキング 2025」1 位のマサチューセッツ工科大学、同 4 位のハーバード大学など同ランキングにランク付けされている 8 校が存在）をはじめ、留学に適した都市は全土にあり、有力大学もまた全国に散らばっていることを示している。

日韓両国を上回る留学に適した都市を持つ国・地域は英米両国にとどまらない。31 位の北京をはじめとする 8 都市の中国、5 位のメルボルンをはじめとする 7 都市のオーストラリアのほか、カナダ 7、台湾 5、フランス、ポーランド、インド、インドネシア各 4 都市と、日本、韓国を上回る国・地域は多い。中国は、「QS 世界大学ランキング 2025」14 位の北京大学、同 20 位の清華大学をはじめとする有力大学が集まる北京のほか、46 位に上海、87 位に南京、104 位に武漢、133 位に広州、137 位に天津、148 位にハルビン、150 位に西安が名を連ねる。上海には、「QS 世界大学ランキング 2025」39 位の復旦大学、同 45 位の上海交通大学、南京には同 145 位の南京大学、武漢には同 194 位の武漢大学、天津には同 269 位の天津大学、ハルビンには同 252 位のハルビン工業大学、西安には同 295 位の西安交通大学と中国本土には留学に適した都市と有力大学が広く全土に存在することが分かる。

留学生受け入れ目標未達成

国際化は日本政府の重要課題となっており、海外からの留学生受け入れについても「留学生 30 万人計画」がすでに 2008 年に策定されている。大学・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）・日本語教育機関に在籍する外国人留学生数を 2020 年までに 30 万人にするという目標だ。目標年より 1 年早い 2019 年 5 月時点で 31 万人に達したという報告書も 2021 年 3 月に公表されている。

一方、大学学部・大学院の外国人留学生数に限ると、日本学生支援機構が昨年 3 月に公

表した「2022 年度外国人留学生在籍状況調査結果」は 2022 年 5 月 1 日時点で 12 万 5,169 人となっている。留学生の主要な受け入れ先となっているのは国立大学で、国立大学協会は 2020 年までに国立大学の大学院、学部を合わせた外国人留学生比率を 10%まで増やすという目標を 11 年前に定めている。しかし、同協会は 2023 年 11 月 1 日時点の国立大学の大学院、学部の外国人留学生数は計 47,150 人で全大学院・学部生の 7.9%にとどまり目標年から 3 年過ぎても目標には届いていないとする報告書を今年 3 月に公表している。

昨年 9 月に公表された英教育誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」の「世界大学ランキング 2024」では、外国人留学生比率は 1 位の英オックスフォード大学の 42%をはじめ上位 10 位内に並ぶ英国と米国の大学すべてで 20%以上となっている。一方、上位 200 位内に入った日本の 5 大学（いずれも国立大学）の外国人留学生比率の見劣りは明らか。29 位の東京大学 15%、55 位の京都大学 11%、130 位の東北大学 12%、175 位の大阪大学 10%、191 位の東京工業大学が 17%と、すべて 20%に満たない。国際的にみると主要国立大学の外国人留学生比率も、海外主要大学に比べるとまだまだ見劣るというのが現実だ。

日文 小岩井忠道（科学記者）

関連サイト

[QS Best Student Cities Rankings 2025 | Top Universities](#)

[QS Best Student Cities Rankings 2024 | Top Universities](#)

[QS World University Rankings 2025: Top Global Universities | Top Universities](#)

関連記事

2024 年 06 月 11 日 [QS 最新世界大学排名，日本的大学排名继续下滑，东京大学排到第 32 位](#)

2024 年 05 月 13 日 [THE 发布 2024 亚洲大学排名，日本大学的排名普遍提升](#)

2024 年 03 月 19 日 [日本国立大学增加留学生人数和外籍教师比例的目标均未能完成](#)

2024 年 02 月 20 日 [THE 公布 2023 年世界大学声誉排名：东京大学位居第 10，日本有 10 所大学入围前 200](#)

2024 年 02 月 01 日 [THE 公布全球国际化大学排名，日本高校排名全面下滑](#)

2023 年 07 月 07 日 [QS 世界大学排名 2024：亚洲大学的跃进势头告一段落？](#)